

阿里雲(Aliyun)開発者大会 現地レポート

2013年10月24～25日 杭州阿里雲創業創新基地

クララオンライン中国

北京オフィスの同僚と共に、杭州で開かれた阿里巴巴主催のクラウドサービスカンファレンス「阿里雲開発者大会」に参加した。「阿里雲」を使った新サービスを競う大会では、工夫をこらしたアプリの数々を目の当たりにし、クラウドサービスの大きな可能性を再認識することができた。また分野別に開かれたカンファレンスでは、盛り上がりを見せるモバイルゲームのクラウドに関する取り組みや業務システムのクラウドへの移行状況などを学ぶことができ、大変充実した2日間を過ごすことができた。

海外の大手クラウドサービスに比べるとまだ及ばない点がある一方で、「阿里雲」の利用が広がるにつれて中国でもクラウドのメリットが理解されるようになり、徐々にあるがクラウドサービスの市場が広がり始めている。先日にはAWSが中国への本格進出を発表したこともあり、2014年は中国にとってのクラウド元年となりそうだ。

1. 中国初のクラウド産業特区が会場に

阿里巴巴(アリババグループ)傘下のクラウドサービス企業、阿里雲会社が主催する中国最大規模のクラウドサービス・カンファレンス「阿里雲開発者大会」が、2013年10月24～25日に開かれた。会場は浙江省杭州市に設置されたクラウドサービス産業の特別誘致地区「杭州転塘クラウドコンピューティングパーク」にある阿里雲創業創新基地で、屋外の主会場と屋内の分会場でそれぞれイベントや講演などが行われた。



24日早朝の阿里雲創業創新基地「1024」にちなんで10月24日の開催となった

-1-

本レポートは、業界・企業に関する情報の提供を目的としたものであり、お客様の経営判断や購買、契約行為にあたってはお客様のご判断のもとに行っていただくようお願いいたします。本レポートは、クララオンラインが直接ご提供するという方法でのみ配布しておりますので、お問い合わせにつきましてはクララオンラインまでご連絡ください。本レポートのいかなる部分も、一切の権利は株式会社クララオンラインに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行うことを禁止いたします。なお本レポートに掲載されている第三者の企業名や商標、ロゴマークは個々の権利所有者に帰属します。また本レポートを日本国外で配布することは禁止いたします。

本大会の入場券は、事前に阿里雲のホームページから申請して入手する。参加者の大半は IT 関係者で、有名企業の幹部、クラウドサービスの専門家、IT 企業のエンジニアなどを中心に約 5000 人が来場した。

2. 熱気あふれる開発者大会

初日の 24 日は第 2 回阿里雲開発者大会の決勝が行われた。これは 2013 年 5 月から阿里雲が自社のクラウドサーバーやオープンストレージサービスが無償で提供して新しいビジネスアイデアを募っていたもので、優勝すれば創業資金として 100 万元(約 1600 万円)が授与される。今年は参加人数と応募作品数ともに前年を上回り、ゲーム、生活サービス、旅行、電子ビジネス、企業支援ソフト、サーバ管理ツールなど様々な分野の作品が集まった。当日は約 127 万人による Web 投票と専門家による審査チームによって選ばれた上位 100 作品が会場に展示されたほか、最も優秀な 20 作品の発表、表彰が行われた。

会場では選ばれた 20 作品について 1 日ばかりで最終選考が行われた。各作品の作成者が舞台上でプレゼンテーションを行い、審査員からの質問にその場で回答して点数を争うもので、審査に参加した国内の有名ベンチャーキャピタルが投資を約束する場面もあり大変な盛り上がりとなった。



上位 20 作品の発表の様子 審査員に加え観覧者も投票できる

今回は支持率が 50%を超える作品がなかったため、優勝にあたる「飛天賞」を獲得するものはなかったが、近くにいる配達員を呼ぶためのアプリ、子供を持つ親を支援する管理ソフト、クラウドサーバとオープンストレージを管理するための WEB ツール、データ収集ツールなどの個性的な作品から、以下の 4 作品が入賞を勝ち取った。



「AmyPI 市場」無料・有料の API サービスと販売プラットフォーム



「销售慧智」モバイルインターネットおよびクラウドサービスを基盤として、貿易会社に販売・サービス・倉庫管理などのソリューションを提供する



「donever 校園愛情」大学向けの校内 SNS プラットフォーム



「信用卡 360」クレジットカードを統合管理し、それぞれのサービス情報を取得できる

優勝賞金の 100 万元は次回の大会に持ち越しとなったことから、来年はさらに優秀な作品が集まることが期待される。

また展示コーナーでは上位 100 作品の展示と共に、作品の説明やテスト用に利用できるパソコンやスマートフォンが用意され、自由に体験することができた。作成者の多くが来場しており、その場で質問したり、エンジニア同士で交流したり、技術討論で盛り上がる姿もみられた。



上位 100 作品の展示コーナー 作成者と交流することができる

3. 大会テーマは「クラウドコンピューティングのバタフライ効果」

翌日の 25 日には、主会場で「云的蝴蝶效应(クラウドコンピューティングのバタフライ効果)」をテーマに、有名 IT 企業のトップが講演を行ったほか、ゲームやモバイルインターネット、金融サービスなどのテーマ別に分かれて分会場でカンファレンスが開かれた。



阿里巴巴的王坚 CTO

最初に舞台上上がった阿里巴巴の王堅最高技術責任者(CTO)は、「クラウドコンピューティングがインターネットに与える影響と阿里雲の発展について」と題して、クラウドサービスが様々な業務形態の企業に革新を起こすと断言し、これからのインターネットの発展を支えるとともに、人々の生活に大きな影響を与える可能性について語った。

隣接する建物で開かれた分野別のカンファレンスでは、阿里雲ゲームの今後の発展見通し、人気ゲームの基盤構築における経験の共有、ゲームデータの分析システムの構築方法、クラウドが電子政府にもたらす影響、クラウドサーバと APP の関連性、従来の ERP からクラウドへの移行について、SaaS 発展の道、威鋒網のゲームリリースに関する発表など、様々なテーマが設けられており、いずれの会場も終日満席となる盛況ぶりだった。



各会場のセミナーはいずれも満席、参加者は講義に熱心に聞き入っていた



北京玩蟹科技公司 叶 CEO

筆者が参加した中でとりわけ刺激を受けたのは、人気ゲーム会社、北京玩蟹科技有限公司の CEO が阿里雲クラウドサーバを利用する中で発生した障害をどのように乗り越えたかを語るもので、クラウドサーバを安定稼働させ、サービスを軌道に乗せるまでの経験談は大変興味深かった。阿里雲は「技術」を強みにした会社から「サービス」を強みにする会社への転換期を迎えているが、このようなトラブルを真摯に受け止め、いかにサービスの品質改善につなげていくか期待したいと感じた。

またモバイルインターネット分会では、高德地図(Autonavi)と阿里雲による「LBS(位置情報サービス)クラウド戦略」が発表された。高德地図は阿里巴巴が筆頭株主を務め

る地図情報サービス会社で、阿里雲を使った LBS クラウドプラットフォームにはすでに 30 万を超えるアプリケーションが公開されているようだ。今後両社はクラウドとモバイルを組み合わせたプラットフォームを開発する計画で、身近なサービスから業務系サービスまで幅広く対応できるプラットフォームに進化させることで、今までプラットフォーム別に開発していたアプリケーションを 1 つに集約し、開発コストの削減に貢献するという。さらに LBS 開発者向けにアプリ開発、位置検索データストレージ、ビッグデータ連携をワンストップで提供する考えも明らかにした。



高德地图 API の展示コーナー



雲 OS 分会では、阿里巴巴が独自に開発したスマートフォン用 OS「雲 OS(阿里雲 OS)」に特化した講演や展示が行われていた。雲 OS はクラウドアプリとの連携を得意としており、決済サービス「支付宝」の担当者によるモバイル決済機能の解説があったほか、雲 OS を搭載したスマートフォン「HIKe X1」や「青橙」の発表会が行われた。

「HIKe X1」は同時開催の開発者大会でも指定機種となっていたもので、製造する珠海市行者云计算技术有限公司(HIKe Mobile)の杜副総裁は、高い生産技術を持つ工場で作られた精度の高い製品で、阿里雲と協力して国内市場に積極的に売り込む考えをアピールしていた。



HIKe スマートフォンと YUNOS



HIKe 用のゲームハンドル

また「青橙」は自由にカスタマイズできるスマートフォンとして注目を集めていた。ハード、アプリ、ケースまで全てのカスタマイズが可能で、展示コーナーのミニ工場では参加者のリクエストに応じてその場でケースを作成するサービスが人気だった。



「青橙」の体験コーナー



その場でケースが作れるミニ工場

4. 各分会の展示コーナーでビジネスマッチングも

各分会の会場ではそれぞれのテーマに関するアプリやゲームなどが数多く展示されていた。クラウドサーバを利用すれば、少ない初期投資でサービスの提供を始めることができ、ユーザ数の増減にあわせて柔軟にリソースの変更ができるため、中小規模の開発会社でも利用しやすいと感じた。展示コーナーにいる各製品の担当者からは、パンフレットを受取って詳しい説明を聞くことができた。名刺交換だけでなく熱心に商談を行う姿もあちこちで見られ、どこの会場も終日活気にあふれていた。



各分会場の展示コーナー アプリをインストールすると記念グッズがもらえるブースも

なかでも特に盛り上がっていたのはゲーム分会の展示コーナーで、新作ゲームをいち早く試せるとあって行列ができていた。PC 向けゲームよりもクラウドサービスと連携するスマートフォン向けゲームの比率が圧倒的に多いことが印象的だった。会場ではゲーム大会も開催され、優勝者には商品が授与されていた。



新作ゲームや人気ゲームに熱中するプレーヤー

5. コミュニティツール「来往」のこれからの期待

今大会では、阿里巴巴が開発したコミュニティツール「来往」が公式ツールとして利用された。各種イベントへの参加も全てこのツールを使って行われ、一部の講演では参加者が「扎堆」というグループチャット機能を使って討論を行う試験的取り組みも行われた。閲覧したらすぐに削除できる機能や二次元コードのデコードなどの機能を評価する声が聞かれた一方で、動作の一部が機能しないといった問題も見受けられた。また今大会の参加者を除けば阿里巴巴の社員らによる利用が大半で、関係者以外にはまだあまり普及していない様子だった。今後は阿里巴巴が運営する「淘宝网」などの既存サービスと連携して、「微信」をはじめとするチャットツールに代わる新たなコミュニケーション手段となることに期待したい。



2013 開発者大会専用「扎堆」

6. 阿里雲を支えるデータセンターを見学

当日会場でデータセンターの見学を申し込むことができた。阿里雲のデータセンター「華通雲数据」は会場から 100 米あまり離れた場所にあり、サーバーラック、電力システム、空調システムを見学することができた。阿里雲は国内メーカーの華為(HUAWEI)のサーバを採用しており、ラックの配線などもきれいに行われていることが確認できた。



華通雲データの外観

また近くでは「飛天 5K」と名付けられた記念碑を見ることもできた。これは阿里雲が飛天システムを使って国内初の単一サーバークラスターとして 5000 台のサーバを稼働することに成功したことを記念して建てられたものだ。その計算能力は 10 万コア、ストレージは 100PB、同時処理能力は 15 万アクセスで、億単位のファイル保存能力を持つという。2013 年 8 月 15 日から杭州転塘クラウドコンピューティングパーク内で阿里巴巴の業務データを取り扱うオープンデータ処理サービスのサーバ群が正式稼働しているそうだ。

本大会では、現時点における阿里雲の最先端の取り組みを数多く見て学ぶことができた。阿里雲のクラウドサービスはまだ AWS のような世界の一流クラウドサービスには及ばないが、「クラウドのバタフライ効果」でこれから中国のクラウドサービスが飛躍的な発展を遂げる予感を感じさせる経験となった。

- 本レポートに含まれる情報は一般的なご案内であり、包括的な内容であることを目的としておりません。また法律・条令の適用と影響は、具体的な状況によって大きく変化いたします。具体的な事業展開にあたってはクララオンライン コンサルティングサービスチームより御社の状況に特化したアドバイスをお求めになることをおすすめいたします。また本書の内容は 2014 年 1 月 7 日時点で編集されたものであり、その時点の法律及び情報、為替レートに基づいています。

本書はクララオンライン コンサルティングサービスチームにより作成されたものです。クララオンラインの中国、台湾、韓国、シンガポールなどアジア各国のインターネットコンサルティングサービスに関するお問い合わせは以下の連絡先までお気軽にご連絡ください。

asia@clara.ad.jp または +81(3)6704-0776